PRESS RELEASE

ギャラリー小柳　展覧会のご案内

HIROSHI SUGIMOTO | OPTICKS

2021.3.26 (Fri) – 5.1 (Sat)

Opticks

ニュートンによるプリズム実験の再現を始めてから今年で１５年になる。毎年冬になると日の出の位置がプリズムの正面に近づいてくる。冬の冷気を通過してくる光は分光され、薄闇の観測室に導かれ、白漆喰の壁に拡大されて投影される。私はその色の階調の奥深さに圧倒される。光の粒子が見えるような気さえするのだ。そしてその一粒一粒の粒子が微妙に違う色を映している。赤から黄、黄から緑、そして緑から青へと無限の階調を含んで刻々と変化していく。私は色に包まれる。特に色が闇に溶け込む時、その階調は神秘へと溶け込んでいくようだ。

私はポラロイドの小さな画面の中にもその微細な粒子が閉じ込められているであろうことに気がついた。数年にわたる実験の結果、私自身が色の中に溶け込むことができるような十分な大きさを持った色画を作ることに成功した。私は光を絵の具として使った新しい絵（ペインティング）を描くことができたように思える。

杉本博司

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では杉本博司の個展『OPTICKS』を、3月26日（金）から5月1日（土）の会期で開催いたします。本展では、去年京都市京セラ美術館で発表された大判カラー作品「Opticks」シリーズから4点を展示いたします。本シリーズは、アイザック・ニュートンのプリズム実験の再現から始まり、最新技術を駆使し、杉本が15年間かけて完成させたものです。

1704年に出版されたニュートンの『光学（OPTICKS）』により、白色だと思われていた太陽光が、プリズムによって赤、橙、黄、緑、青、藍、紫など複数の色から構成されていることが発見されました。杉本は、ニュートンが発明した観測装置を改良し、プリズムを通して分光させた色そのものをポラロイドフィルムで記録しています。(*) 色と色の隙間に立ち現れる無限の階調を焼き付けたポラロイドをデジタル技術で大判プリント作品に仕上げています。
杉本は「私は捨象されてしまった色の間でこそ世界を実感することができるような気がするのだ。そして科学的な認知が神を必要としなくなった今、そこからこぼれ落ちる世界を掬い取るのがアートの役割ではないかと思うようになった。私は余命幾ばくもないポラロイドフィルムを使って、この色と色の隙間を撮影してみることにした。」と語っています。モノクロの写真作品で知られる杉本にとって初の試みとなる、「光を絵の具として使った」圧倒的なカラーフィールドを体感ください。

杉本博司は1948年東京生まれ。1970年渡米、1974年よりニューヨーク在住。活動分野は、写真、彫刻、インスタレーション、演劇、建築、造園、執筆、料理と多岐に渡り、世界のアートシーンにおいて地位を確立してきました。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとし、そこには経験主義と形而上学の知見をもって、西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図があり、時間の性質、人間の知覚、意識の起源を探求しています。世界的に高く評価されてきた作品は、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）やポンピドゥ・センター（パリ）など世界有数の美術館に収蔵されています。代表作に「海景」、「劇場」、「建築」シリーズなど。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、IZU PHOTO MUSEUM (2009)、MOA美術館改装（2017）などを手掛けています。2009年には公益財団法人小田原文化財団を設立し、2017年10月には構想から10年の歳月をかけ建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」をオープンしました。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。ご掲載の際にはご一報いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

ギャラリー小柳

＊ポラロイド社は2001年、2008年に経営不振により倒産した。その後2017年に債権者が立ち上げたインポッシブル・プロジェクトにより事業は引き継がれたが、本来のポラロイドフィルムは2008年に製造中止された。
本展覧会の作品は2009–2010年に最後の在庫フィルムで撮影されたものです。

【広報用図版】

キャプション：
Hiroshi Sugimoto
Opticks 128
2018
chromogenic print

クレジットライン：
© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

【展覧会概要】

展覧会名：HIROSHI SUGIMOTO｜OPTICKS
会期：2021 年 3 月 26 日（金）～5 月 1 日（土）
開廊時間：12:00～19:00
休廊日：日・月・祝祭日
会場：ギャラリー小柳　東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F
Tel: 03-3561-1896　Fax: 03-3563-3236
交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口より徒歩 1 分
丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9 出口より徒歩 5 分
URL：http://www.gallerykoyanagi.com
お問い合わせ：ギャラリー小柳　電話 03-3561-1896｜メールアドレス mail@gallerykoyanagi.com

＊新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の状況によっては、開催時期・内容等を変更する場合がございます。その際は、ギャラリー小柳のウェブサイトにてご案内いたします。

杉本博司

1948 東京生まれ
1970 立教大学経済学部卒業
1974 アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン卒業
1974- ニューヨーク在住

受賞歴

2018 ナショナル・アーツ・クラブ 名誉勲章[写真]部門、ニューヨーク
2017 文化功労者 選出、東京
王立写真協会賞、ロンドン
2014 第１回イサム・ノグチ賞、ニューヨーク
2013 フランス芸術文化勲章オフィシエ章、パリ
2010 秋の紫綬褒章、東京
2009 高松宮殿下記念世界文化賞［絵画］部門、東京
2006 フォトエスパーニャ賞、マドリッド、スペイン
2001 国際写真賞、ハッセルブラッド基金、ヨーテボリ、スウェーデン
2000 名誉博士号、パーソンズ・スクール・オヴ・デザイン、ニュースクール大学、ニューヨーク
1999 グレン・ディンプレックス賞、アイルランド近代美術館、ダブリン
第１５回アニュアル・インフィニティ賞、国際写真センター、ニューヨーク
1988 毎日芸術賞、東京
1982 国立芸術基金（NEF）助成金、ワシントン D.C.
1980 ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団奨学金、ニューヨーク
1977 C.A.P.S.奨学金、ニューヨーク

主な個展

2020 「飄々表具 －杉本博司の表具表現世界－」細見美術館（京都）
「杉本博司 瑠璃の浄土」東山キューブ、京都市京セラ美術館（京都）
「Past Presence」ギャラリー小柳（東京）
2019 「Past Presence」マリアン・グットマン・ギャラリー（ニューヨーク）
2018 「クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし—杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」長崎県美術館(長崎)
「SUGIMOTO VERSAILLES Surface of Revolution」トリアノン、ヴェルサイユ宮殿（フランス）
「信長とクアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻 ＋ 杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」MOA 美術館（静岡）

「杉本博司：Still Life」ベルギー王立美術館（ブリュッセル、ベルギー）
2017 「杉本博司：天国の扉」ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク）
「LE NOTTI BIANCHE」サンドレット・レ・レバウデンゴ財団現代美術館（トリノ、イタリア）
2016 「杉本博司 ロスト･ヒューマン」東京都写真美術館（東京）
2015 「趣味と芸術—味占郷」千葉市美術館（千葉）／細見美術館（京都/*2016）
「今昔三部作」千葉市美術館（千葉）／モスクワ・マルチメディア美術館（ロシア/*2016）／Musée des Beaux-Arts, Le Locle(ヌーシャテル、スイス/*2016）
2014 「ON THE BEACH」ギャラリー小柳（東京）
「ロスト・ヒューマン・ジェネティック・アーカイブ」パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス）
「杉本博司：Past Tense」The J. Paul Getty Museum（ロサンゼルス、アメリカ）
2013 「杉本博司」サムスン美術館リウム（ソウル、韓国）
2012 「Five Elements」ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司　ハダカから被服へ」原美術館（東京）
2011 「杉本博司 アートの起源｜建築」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
2009 「杉本博司—光の自然」IZU PHOTO MUSEUM（静岡）
「放電場」ギャラリー小柳（東京）
2008 「歴史の歴史」金沢 21 世紀美術館（石川）／国立国際美術館（大阪/*2009）
2007 「漏光」ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司」K20 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）／ノイエ・ナショナルギャラリー（ベルリン、ドイツ/*2008）
2006 「本歌取り」ギャラリー小柳（東京）
「観念の形 数理模型」アトリエ・ブランクーシ、ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
2005 「歴史の歴史」ジャパン・ソサエティー・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
「杉本博司：時間の終わり」森美術館（東京）／ハーシュホーン博物館と彫刻の庭(ワシントン D.C、アメリカ/*2006)
2004 「大ガラスが与えられたとせよ」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
2003 「杉本博司」サーペンタイン・ギャラリーズ（ロンドン、イギリス）
「杉本博司：歴史の歴史」メゾンエルメス フォーラム（東京）
「ARCHITECTURE」ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司：建築」シカゴ現代美術館（イリノイ州、アメリカ）
2001 「杉本博司：時の建築」ブレゲンツ美術館（オーストリア）
「Portraits」ギャラリー小柳(東京)
2000 「杉本博司」ルフィーノ・タマヨ美術館（メキシコシティ、メキシコ）
「杉本博司：建築シリーズ」サンフランシスコ近代美術館（カリフォルニア州、アメリカ）

「杉本博司：ポートレート」ドイツ・グッゲンハイム美術館（ベルリン、ドイツ）／ビルバオ・グッゲンハイム美術館(ビルバオ、スペイン)

1999 「陰翳礼讃」ギャラリー小柳（東京）

1998 「モダニズム」ギャラリー小柳（東京）

1997 「Twice as Infinity」ギャラリー小柳（東京）

1996 「杉本博司：写真」ストックホルム近代美術館（スウェーデン）

「Motion Picture」ギャラリー小柳（東京）

1995 「Still Life」ギャラリー小柳（東京）

「杉本博司」メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）／ヒューストン・コンテンポラリー・アート・美術館（ヒューストン、アメリカ/*1996）／ハラ ミュージアム アーク（群馬/*1996）／アクロン美術館（オハイオ州、アメリカ/*1997）

「杉本博司：Time Exposed」クンストハレ・バーゼル（スイス）

1994 「杉本博司」ロサンゼルス現代美術館（カリフォルニア州、アメリカ）

1992 「杉本博司：Time Exposed」CAPC ボルドー現代美術館（フランス）

1991 「杉本博司：Time Exposed」佐賀町エキジビット・スペース／佐賀町 BIS、IBM 箱崎ビル前庭（東京）

1989 「近作展 6―杉本博司」国立国際美術館（大阪）

1988 「杉本博司」佐賀町エキジビット・スペース／ツァイト・フォト・サロン（東京）

「杉本博司：ジオラマ、劇場、海景」ソナベンド・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）

1977 「杉本博司」南画廊（東京）

<u>主なグループ展</u>

2020 「STARS 展：現代美術のスターたち―日本から世界へ」森美術館（東京）

2017 「不在を作っているもの」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園（ワシントン D.C.、アメリカ）

2015 「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」森美術館（東京）

2014 「シンプルなかたち」ポンピドゥー・センター・メッス（フランス）

2012 「アジアの亡霊」サンフランシスコ・アジア美術館 （カルフォルニア州、アメリカ）

2011 横浜トリエンナーレ 2011(神奈川)

2010 第 17 回シドニービエンナーレ(オーストラリア)

「セクシュアリティと超越」ピンチェック・アートセンター(キエフ、ウクライナ)

2009 「マッピング・ザ・スタジオ」プンタ・デラ・ドガーナ（ベネチア、イタリア）

「第三の心：アメリカ人アーティストが見つめたアジア、1860-1989」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）

2008 「リアリティチェック：現代写真における真実と幻想」メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）

「写真についての写真：メディアムに写り込むもの 1960 年より」メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）

2004 「単数形（時々反復）：1951 年から現在までのアート」グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）

2003 「ハピネス：アートにみる幸福への鍵」森美術館（東京）

「日本写真の歴史」ヒューストン美術館（テキサス州、アメリカ）／クリーヴランド美術館（オハイオ州、アメリカ）

2002 「ムーヴィング・ピクチャーズ」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）

2001 横浜トリエンナーレ 2001(神奈川)

2000 「ゲンダイ：日本現代美術―身体と空間の間」ウジャドゥスキー城現代美術センター（ワルシャワ、ポーランド）

「拡張する地平線 ホイットニー美術館収蔵品に見る風景写真」ホイットニー美術館フィリップモリス分館(ニューヨーク、アメリカ)

1999 「美に関して：20 世紀末の視点」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園（ワシントン D.C.、アメリカ）

第 3 回アジア・パシフィック・トリエンナーレ（ブリスベン、オーストラリア）

「ミューズとしての美術館」ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）

1998 「今世紀の終わりに：建築の 100 年」東京都現代美術館(東京)／ロサンゼルス現代美術館（カルフォルニア州、アメリカ）

1997 「In Visible Light：芸術、科学および日常における写真と分類」オックスフォード近代美術館（イギリス）

1996 第 10 回シドニービエンナーレ(オーストラリア)

「プロスペクト 96：現代美術における写真」フランクフルト・クンストフェライン、シルン・クンストフェライン（ドイツ）

「夜に」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）

1995 「アルバム：ボイマンス=ファン・ベーニンゲン美術館写真コレクション」ボイマンス=ファン・ベーニンゲン美術館（ロッテルダム、オランダ）

「日本の現代美術 1985―1995」東京都現代美術館(東京)

1994 「空間・時間・記憶：Photography and Beyond in Japan」原美術館（東京）

「戦後日本の前衛美術展：空へ叫び」横浜美術館（神奈川）／グッゲンハイム美術館ソーホー(ニューヨーク、アメリカ/*1995)／サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ、アメリカ/*1995)

1993 「21 世紀：パラケルススと未来に向って」クンストハレ・バーゼル（スイス）

1992 「隠されたリフレクション」イスラエル博物館（エルサレム、イスラエル）

1991 「カーネギー・インターナショナル 1991」カーネギー美術館（ペンシルバニア州、アメリカ）

「キャビネット・オブ・サインズ：ポストモダン日本の現代美術」テート・ギャラリー・リバプール（イギリス）

1990 「80 年代の日本美術」フランクフルト・クンストフェライン（ドイツ）

「写真の過去と現在」東京国立近代美術館（東京）

1987 アメリカにおける日本現代美術 (1)：アリタ、ナカガワ、スギモト」ジャパン・ソサエティー・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）

1978 「新蔵作品展」ニューヨーク近代美術館(アメリカ)